

海外に残された琉球文学資料

— 国立台湾大学図書館蔵「琉歌大観」を読む —



国立台湾大学図書館蔵

2024.

8.31 土

入場無料
10:00~12:00
(開場 9:30)

※ 席数に限りがありますので、ご入場いただけない場合があります。予めご了承ください。

※ 会場内は、空調の影響で寒くなる場合があります。

講師 石川 恵吉 氏

(法政大学 沖縄文化研究所 国内研究員)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂

受付 当日先着 (定員 200 名)

お問合せ 098-941-8200

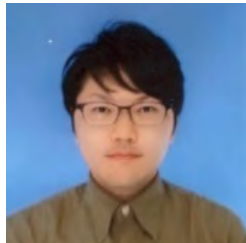
〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

長年“幻”の詞歌集として伝えられてきた「琉歌大観」。平成2年にその写本が国立台湾大学図書館に残されていることが判明し、県内外の琉球沖縄研究者を驚かせました。あれから30年余の月日を経て、昨年琉球大学と台湾大学の共同研究によってその全容が明らかにされたところです。

本講座では、台湾に残された貴重な写本の解明を通して見えてきた、などの多い「琉歌大観」の世界を最新の研究成果をもとに紹介します。

※通常の文化講座と開催時間が異なります。ご注意ください。



【講師】 石川 恵吉 (いしかわ しげよし)

1988年、沖縄県石垣市生まれ。博士(学術)。専門は琉球文学。琉球大学卒業。名城大学非常勤講師、沖縄県教育庁文化財課史料編集業務員などを経て、現在は(公財)国立劇場おきなわ運営財団にて勤務。主要著書に共編著『国立台湾大学図書館蔵 琉歌大観』全4巻(2020~2023年、国立台湾大学図書館)がある。

あなたの沖縄に出会う